取扱説明書

CD ポータブルシステム

型名 **RC-QS21**

お買い上げありがとうございます

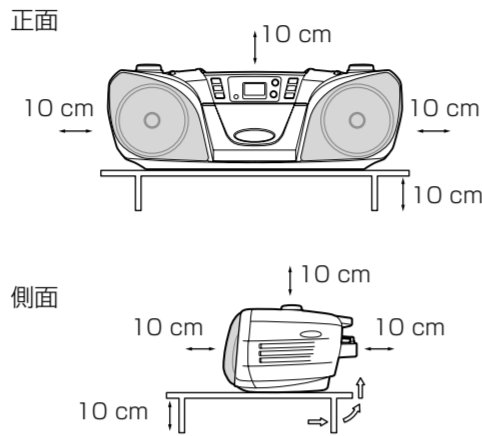
⚠ご使用の前に
この「取扱説明書」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
特に別紙の「安全上のご注意」は、必ずお読みいただき安全にお使いください。
そのあと保証書と一緒に大切に保管し、必要なときにお読みください。

LVT2004-001A
0109KMMMDWMTS

本機を設置するときは

本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。特に次のことに注意してください。

- あお向けや横倒し、逆さまにしない
- 本箱、押し入れなど風通しの悪い狭い所に押し込まない
- テーブルクロス、新聞、カーテンなどで通風孔をふさがない
- 本や雑誌などをのせない
- じゅうたんや布団の上に置かない

側面
10 cm　10 cm　10 cm　10 cm

付属品の確認

お使いになる前にお確かめください。

リモコン
RM-SRCQS21K
(1個)

単4形乾電池(2本)

電源コード(1本)

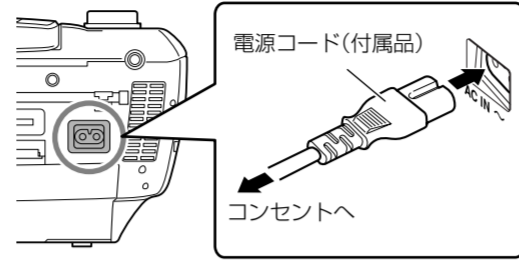
はじめに

電源コードをつなぐ

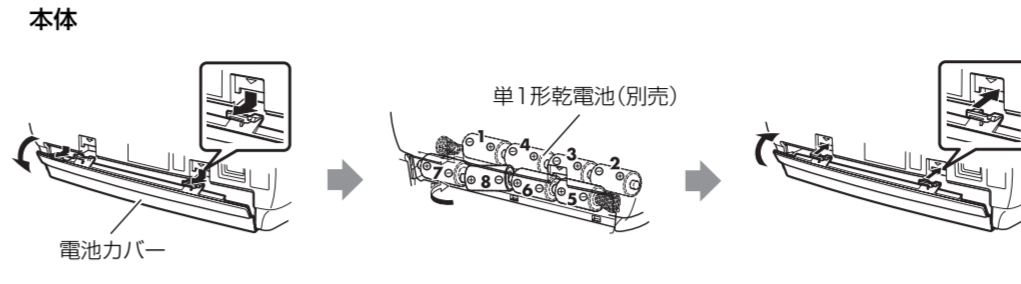
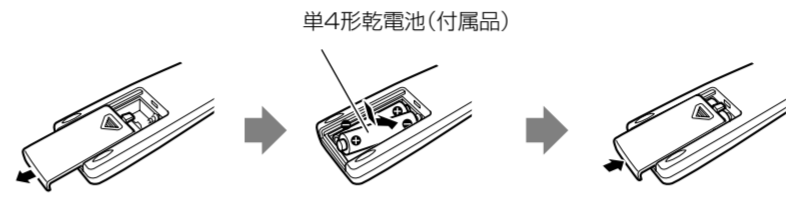
お知らせ

- 電池からも電源を供給することができます。(右記のイラストをご覧ください。)
- スタンバイ状態のとき(電源 切のとき)にも少量の電力を消費します。

ご注意

- 形状の違いによる故障や事故を防止するため、指定以外の電源コードは絶対に使用しないでください。
- 付属の電源コードは本機以外の機器には使用しないでください。
- 電源コードを使用するときは、電池を取り出してください。
- 出かけるときや長期間使用しないときは、電源コードをコンセントから抜いてください。

電池を入れる

電池の＋と－の向きを正しく入れてください。

本体

リモコン

- リモコンを操作しても本機が反応しないときは、新しい電池と交換してください。

お知らせ

- 電源コードをコンセントに差し込んでいるときは、電池からは電源供給されません。
- 本機を連続して操作したり、寒い場所で操作すると、電池の消耗が早くなります。

ご注意

- 付属の乾電池は動作確認用です。早めに新しい乾電池と交換してください。
- 乾電池は、「安全上のご注意(別紙)」をお読みの上、正しくお取り扱いください。

主な仕様

CDプレーヤー部	
形式	CDポータブルシステム
サンプリング周波数	44.1 kHz
チャンネル数	2チャンネル・ステレオ
周波数特性	20 Hz～20 kHz
チューナー部	
受信周波数	FM:76.0 MHz～90.0 MHz AM:530 kHz～1,600 kHz
アンテナ	FM:ロッドアンテナ AM:フェライトコアアンテナ
カセットデッキ部	
トラック方式	コンパクトカセット・ステレオ
録音方式	交流バイアス
消去方式	マグネット消去
ヘッド	消去(マグネット) 録音・再生 コンビネーション×1
周波数範囲	ノーマルテープ:60 Hz～12.5 kHz(JEITA)
早巻時間	約170秒(C-60)
共通部	
スピーカー	10 cm (コーンスピーカー×2)、4 Ω
実用最大出力	2 W + 2 W (JEITA／AC)
電源	AC100 V　50 Hz／60 Hz DC12 V　単1形乾電池×8
消費電力	電源 入時　13 W 電源 切時　0.9 W
最大外形寸法	幅 407 mm × 高さ145 mm × 奥行き254 mm
質量	約2.65 kg(電池なし)

- 本機の仕様および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。
- JEITAは、電子情報技術産業協会の規格による数値です。

CD ／ファイル／カセットテープについて

再生できるCDとファイル

CD	下記のマークのあるCDを再生することができます。
ファイル	• 音楽CD • MP3ファイル

- 本機では、CD規格(CD-DA)に準拠しないディスクについては、動作や音質を保証できません。
CDを再生する際には、「CDロゴマーク」の有無や、パッケージのご注意をお読みになり、CD規格に準拠するディスクであることをお確かめください。

CD-R／CD-RWについてのご注意

お客様が編集したCD-R/CD-RW ディスクは、ファイナライズ処理されているディスクに限り本機でお楽しみいただけます。

- CD-R/CD-RWディスクを作成するときは、ディスクフォーマットを「ISO 9660」にしてください。また、パケットライト方式(UDFフォーマット)は使用しないでください。
- ディスクの特性・記録状態・傷・汚れ、またはプレーヤーのレンズの汚れ・結露などにより本機で再生できないことがあります。
- CD-R/CD-RWディスクをお使いになる前に、ディスクの使用上のご注意をよくお読みください。
- CDテキストの表示には対応しておりません。
- 音楽用のCDフォーマットまたはMP3ファイル以外で記録したことのあるCD-RWディスクは、いったん全曲を消去してください。そのまま使用すると、突然大きな音が出てスピーカーを破損するなどの原因になります。

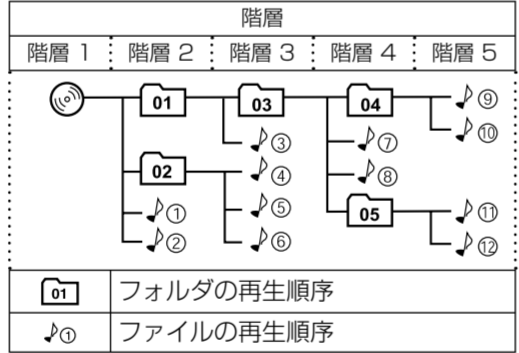
MP3ファイルについてのご注意

- MP3ファイルの入ったCDは、通常の音楽CDよりも読み取りに時間がかかります。(フォルダやファイルの構成により読み取り時間は異なります。)
- 再生できるMP3ファイルは「.mp3」の拡張子がついているファイルです。(大文字と小文字が混在した拡張子も可)
- MP3ファイルによっては、再生できないことがあります。これは、ファイルの録音状態や記録方法によるものです。
- MP3ファイルはサンプリング周波数44.1kHzと、転送レート128kbpsの周波数で作成することをおすすめします。
- MP3ファイルの再生順は、録音時に意図した順序と異なることがあります。(MP3ファイルを含まないフォルダは無視されます。)
- 本機はCD1枚あたり、曲を511曲まで、フォルダを255個まで認識できます。これらを越える曲／フォルダは認識できません。

MP3のフォルダ／ファイルの構成

本機では下記のようにMP3ファイルを再生します。

階層
階層 1 ｜ 階層 2 ｜ 階層 3 ｜ 階層 4 ｜ 階層 5

01	フォルダの再生順序
♪①	ファイルの再生順序

カセットテープについてのご注意

- カセットテープの始めには、録音できないリーダーテープがあります。録音するときはあらかじめ再生してリーダーテープを巻き取っておいてください。
- C-120やC-150などの長時間テープは、使用しないでください。長い時間の録音または再生に便利ですが、テープが薄く伸びやすいため、機械内部に巻き込まれる原因となります。
- 本機は、ノーマルテープ(TYPE Ⅰ)の再生／録音に対応しています。ハイポジションテープ(TYPE Ⅱ)やメタルテープ(TYPE Ⅳ)は、特性が異なるためお勧めできません。再生／録音すると音質が変わります。

よりよくお使いいただくために

お手入れについて

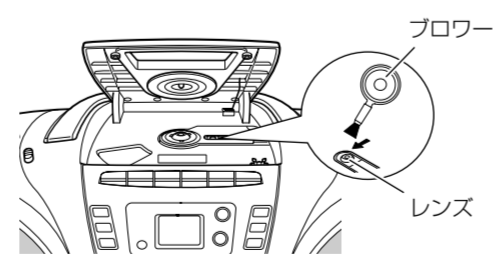
本体のお手入れ

パネル操作面が汚れたら柔らかい布でからぶきしてください。汚れがひどいときは水で布をしめらすか、中性洗剤を少し布につけてふき、あとはからぶきしてください。

- シンナーやベンジン、アルコールなどの化学薬品でふいたり、殺虫剤をかけないでください。変色したり表面の仕上げをいためることがあります。

CDプレーヤーのレンズのお手入れ

レンズの汚れは音飛びなど演奏ができなくなる原因になります。
CDドアを開け、図のようにレンズを清掃してください。

- ほこりなどは市販のクリーニングキットのブロワーを使って、はき出してください。
- 万一、指紋な どが付いているときは綿棒で軽くふいてください。

カセットデッキのヘッド部のお手入れ

音が小さくなったり音質が悪くなる前に、およそ10時間使うごとにヘッドやピンチローラー、キャプスタンを清掃してください。

- 市販のクリーニングキット(綿棒とクリーニング液)を使うと便利です。
- ヘッドが磁化されると、高音が聞こえにくくなったり、雑音が多くなったりします。このようなときは、市販のヘッド消磁器で消磁してください。

CDの取り扱いとお手入れ

- CDにテープやシールなどを張ったり、字を書いたりしないでください。
- CD は曲げないでください。
- ハートや花などの形をしたシェイプCD(特殊形状のCD)は、絶対に使用しないでください。故障の原因となります。

お手入れするときは、ほこりやゴミ、指紋などを柔らかい布でふきとってください。

必ず内側から外側へ
連続したキズは音飛びの原因となります。

- シンナーやベンジン、アナログレコード用のクリーナーなどは絶対に使用しないでください。

カセットテープの取り扱いについて

- テープにたるみがありますと、巻き込まれたり、故障の原因になります。使用する前に右図のようにしてたるみを取り除いてください。

- テープを引き出したり、テープ面に触れないでください。

大切な録音を消さないために(カセットテープ)

カセットテープには誤消去防止用のツメ(タブ)がついています。

- ツメを折っておくと録音(消去)ができなくなり、誤って消してしまうことが防げます。

- 再び録音したいときは、ツメの穴をセロハンテープなどでふさぎます。

故障かな？と思ったら

修理に出す前に、もう一度お確かめください。

共通

電源が入らない
➡電源コードの接続を確認してください。または、本体の電池を新しいものと交換してください。

再生時の音が小さすぎる
➡本体の電池が消耗していませんか。新しい電池と交換してください。
➡カセットデッキのヘッドが汚れていませんか。清掃してください。

リモコンから本体を操作できない
➡リモコンと本体のリモコン受光部との間が遮られていませんか。
➡リモコンの電池が消耗していませんか。新しい電池と交換してください。

音声が聞こえない
➡音量が最小になっていませんか。
➡ヘッドホンが接続されていませんか。ヘッドホンを外してください。

ラジオチューナー

雑音が多く放送が聞きづらい
➡アンテナの向きは適切ですか。アンテナを調節してください。

CDプレーヤー

CDが再生できない
➡機能スイッチは「CD」にセットされていますか。
➡CDが逆さまに入れられていませんか。ラベル面を上にして入れてください。
➡CDまたはレンズが汚れていませんか。CDまたはレンズを清掃してください。
➡湿気により水滴がついていませんか。使用する前に電源を入れて数時間お待ちください。

カセットデッキ

音声が聞こえない
➡機能スイッチは「テープ/電源 切」にセットされていますか。

再生ボタンを押してもカセットテープが動かない
➡**一時停止**ボタンが押されていませんか。もう一度**一時停止**ボタンを押すと動きます。

録音できない
➡カセットテープの誤消去防止用のツメが折られていませんか。ツメの穴をセロハンテープなどでふさいでください。
➡カセットテープは入っていますか。カセットテープを入れてください。

カセットテープの速度が不規則である
➡ピンチローラーかキャプスタンが汚れていませんか。ピンチローラーかキャプスタンを清掃してください。
➡本体の電池が消耗していませんか。新しい電池と交換するか、コンセントから電源を供給してください。

上記の処置をしても正しく動作しないときは
本機はマイコンの働きで、多くの動作を行っています。万一、どのボタンを押しても正しく動作しないときは、一度電源コードを外し、しばらく待ってからつなぎ直してください。

- 本機の故障または不具合等により、録音・再生およびCDの演奏などにおいて利用の機会を逸したために発生した損害等の補償については、ご容赦ください。
- 大切な録音の場合は、必ず事前に試し録音をして正常に録音できることを確認してからお使いください。

基本操作

CD／テープ／ラジオを選ぶ

機能スイッチをスライドさせて「CD」、「テープ/電源 切」、「FM/AM」を選びます。

CD：
CDを再生するときに選びます。（「CDを聞く」をご覧ください。）

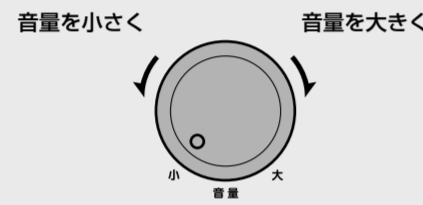
テープ/電源 切：
カセットテープを再生するとき、または本機の電源を切るときに選びます。（「テープを聞く／録音する」をご覧ください。）

- カセットテープを再生すると、電源が入ります。

FM/AM：
FM/AM放送を聞くときに選びます。（「ラジオを聞く」をご覧ください。）

音量を調節する

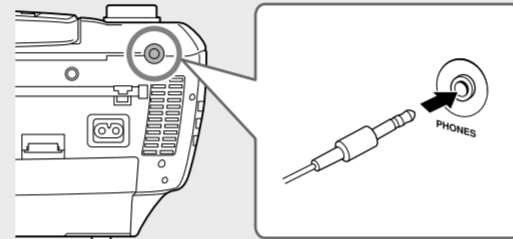
音量つまみを回して、音量を調節します。

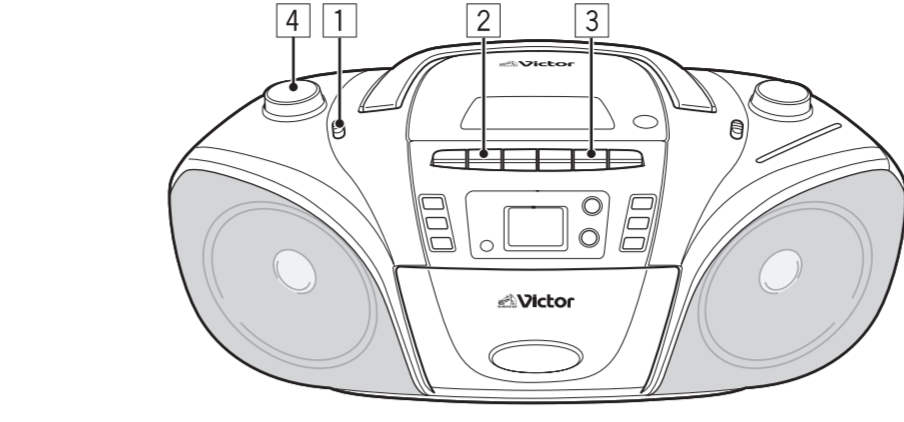
- 電源を入れる前や、カセットテープを再生する前には音量を最小にしてください。

電源を切る

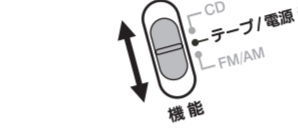
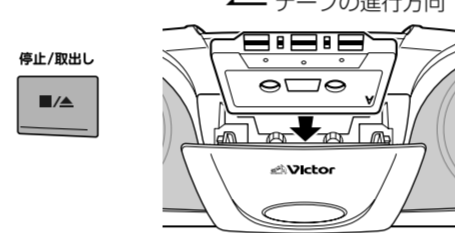
機能スイッチを「テープ/電源 切」に合わせます。

- 機能スイッチが「テープ/電源 切」になっているときも、カセットテープを再生できます。

ヘッドホンで聞く

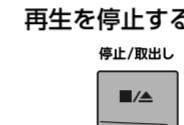
市販のヘッドホンを、背面のPHONES端子に接続します。

- ヘッドホンを接続している間は、スピーカーからは音が出ません。
- ヘッドホンを接続する前に、音量を小さくしてください。

テープを聞く／録音する

再生する

1 機能スイッチを「テープ/電源 切」に合わせる

2 再生したい面を手前にして、カセットテープを入れる

- カセットホルダーを閉めるときは、「カチッ」と音がするまで確実に押して閉めてください。

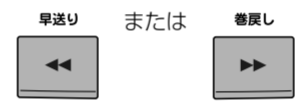
3 再生する

再生

4 音量を調節する

再生を停止する

再生を一時停止する

- 再開するにはもう一度**一時停止**ボタンを押します。

早送り／巻戻しする

早送り　または　巻戻し

- テープを巻き終えたら**停止/取出し**ボタンを押して、**早送り**または**巻戻し**ボタンを元に戻します。

録音する

1 録音するソース（音源）を準備する（ラジオまたはCD）

- ラジオ放送を録音する
  機能スイッチを「FM/AM」に合わせ、録音したい放送局を選びます。（「ラジオを聞く」をご覧ください。）
- CDから録音する
  機能スイッチを「CD」に合わせ、CDを入れます。（「CDを聞く」をご覧ください。）
  - 1曲のみを録音したい場合は、あらかじめ曲を選んでください。
  - お好みの曲順で、曲を録音したい場合は、「好きな曲順で再生する（プログラム再生）」をご覧ください。

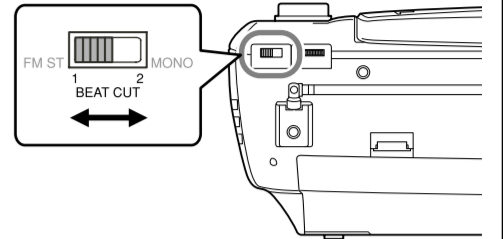
2 録音用のカセットテープを入れる
本機は、ノーマルテープ（TYPE I）に限り録音できます。

3 録音をはじめる

- 録音ボタンと一緒に再生ボタンも押し下げられます。
- CDから録音するときは、シンクロ録音機能により、CDの再生が同時に始まります。

録音を停止する
停止/取出しボタンを押します。

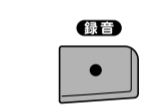
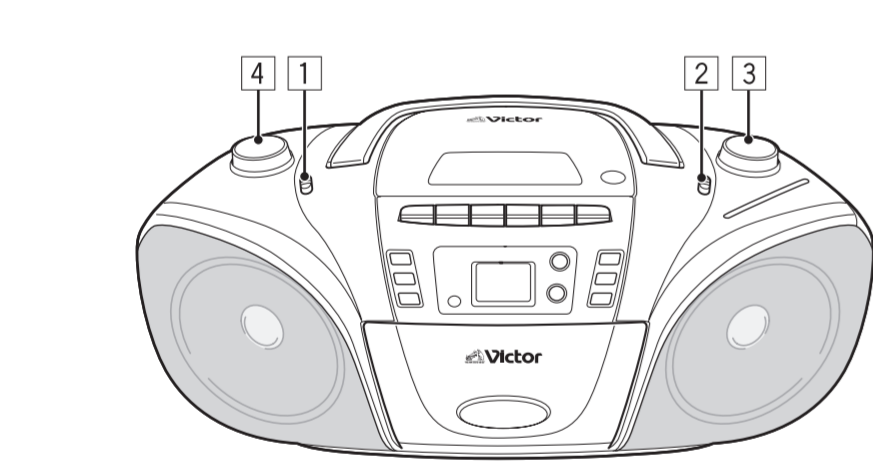
- テープの片面を巻き終わると、録音も停止します。
- CDの録音のときは
  - テープの片面の録音が終わると、CDの再生は自動的に一時停止します。
  - CDの再生が停止しても、テープは録音を続けます。録音を停止するには、**停止/取出し**ボタンを押します。

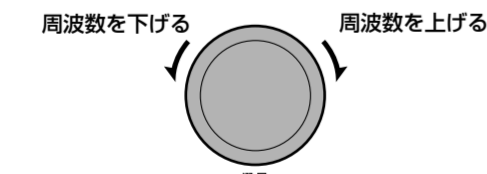
AM放送を録音中に…
AM放送を録音するとき、ピーという音（ビート音）が気になる場合は、ビートカットスイッチを切り換え、軽減される方を選んでください。

お知らせ

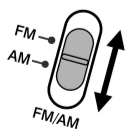
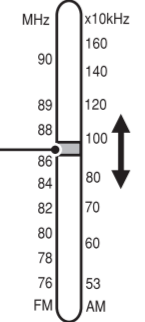
- 著作権者の同意なく著作権物を再生したり録音することは違法である場合があります。
- 録音中も音量を調節できます。録音に適した音量が自動的に設定されており、音量調節の影響を受けません。
- 録音中、テレビと本機との距離が近すぎると、録音した音声は雑音が多くなることがあります。録音中はテレビの電源を切るか、テレビと本機の距離を離してください。

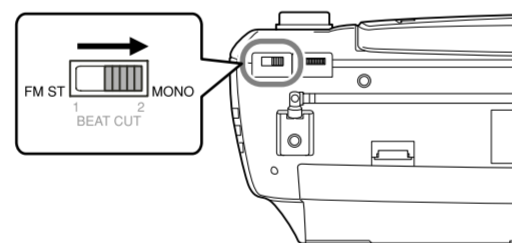
録音した内容を消去する（無音録音）

1 機能スイッチを「テープ/電源 切」に合わせる

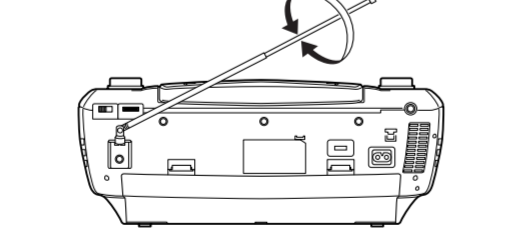
2 録音した内容を消す

ラジオを聞く

基本操作

1 機能スイッチを「FM/AM」に合わせる

2 FM/AMスイッチで「FM」または「AM」を選ぶ

3 選局をする

周波数の目盛を見ながら選局つまみを回して、聞きたい放送局に合わせます。

4 音量を調節する

FMステレオ放送を受信中に…
FMステレオ（FM ST）放送が雑音で聞きにくい場合は、モノラル受信（MONO）に切り換えてください。モノラル受信にすると聞きやすくなることがあります。

- ステレオ受信に戻すには、「FM ST」に合わせてください。

アンテナを調節する

FM

AM
AMアンテナは本機に内蔵されています。本機の向きを調節してAMを受信してください。

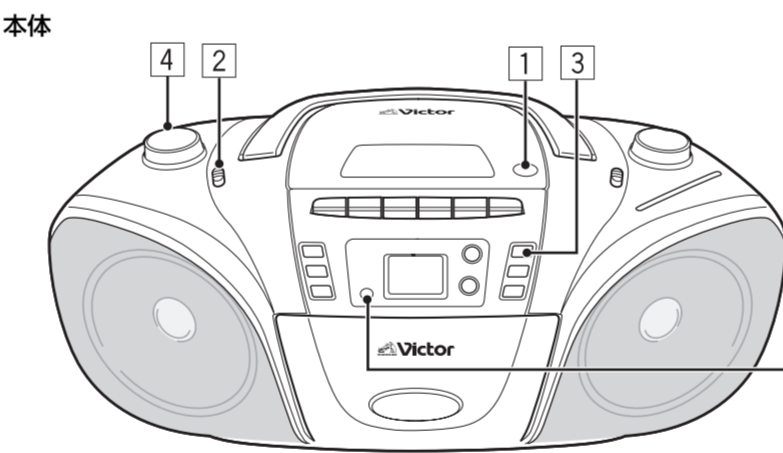
- 聞こえにくい場合は、本機を窓際に設置すると、よく受信できます。

CD を聞く

音楽CD、MP3ファイルを記録したCDを再生します。

本体

リモコンを使用するときは、リモコンをリモコン受光部にまっすぐ向けてください。

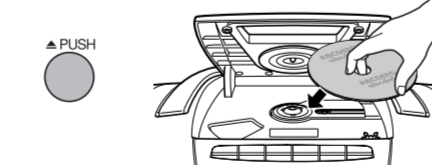
リモコン

再生する

1 CDを入れる

2 機能スイッチを「CD」に合わせる

総曲数

3 再生する

本体　リモコン

MP3ファイルを再生しているときのみ、点灯します。

再生中の曲番号

4 音量を調節する

停止する

本体　リモコン

一時停止する

本体　リモコン

- もう一度▶/IIボタンを押すと、再生を再開します。

曲を選ぶ

本体　または　リモコン　または

フォルダを選ぶ（MP3のみ）

本体　リモコン

フォルダ番号

早戻し／早送りする
再生中に…

本体　または　リモコン　または

押したままにする　押したままにする

好きな曲順で再生する（プログラム再生）

好きな曲を好きな順番で再生することができます。最大20曲まで設定できます。

プログラムを設定する
停止中に…

1 プログラム画面を表示させる

本体　リモコン

- 1番目の曲が選べるようになります。

2 設定する曲が入っているフォルダを選ぶ（MP3のみ）

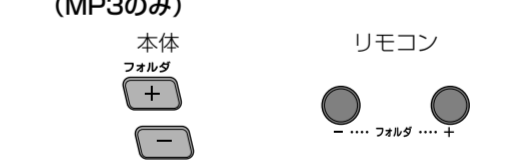
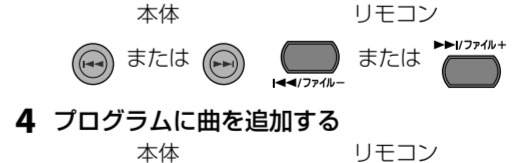
本体　リモコン

3 設定する曲を選ぶ

本体　リモコン

4 プログラムに曲を追加する

本体　リモコン

- 次のプログラム番号が点滅します。

5 手順2から4をくり返す

- ■ボタンを押すとプログラム設定を中止します。

6 プログラムを再生する

本体　リモコン

プログラムを編集する

1 停止中に**プログラム**ボタンをくり返し押して編集したい曲のプログラム番号を選ぶ

- プログラムの最後に曲を追加するには、最後のプログラム番号を選びます。

2 左記の手順**2**から**4**をくり返して新しい曲を選ぶ

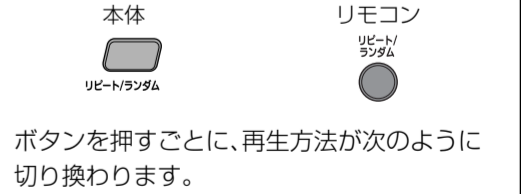
プログラムを消去する
停止中に■ボタンを押す

- 「PRO」表示が消えます。
- 以下の場合もプログラムは消去されます。
  - CDドアを開けたとき
  - 本機の電源を切ったとき
  - テープまたはラジオに切り換えたとき

くり返し再生する／ランダムに再生する

再生方法を選ぶ

本体　リモコン

ボタンを押すごとに、再生方法が次のように切り換わります。

表示窓	再生方法
REP	1曲のみくり返します。
001 REP	フォルダ内の曲をくり返します。（MP3のみ）
REP	すべての曲をくり返します。
RAN	ランダム（無作為）な順序で曲を再生します。

くり返し再生／ランダム再生を中止するには、上記の表示が消えるまで、同じボタンをくり返し押します。